

みんなの黄援が力に

さかき  
榊 真菜さん  
(コートネーム：ハル)



パリ五輪ハンドボール女子強化合宿メンバーとして選ばれた榊真菜さん(24歳)。市内のスポンサー企業である(株)ドリム・メデイカルで働きながら、女子ハンドボールチーム「HC名古屋」に所属し、ゴールキーパー(以下、GK)として活躍しています。

ハンドボールとの出会いは、中学生の時。始めて間もなく、高身長を理由にGKに抜てきされます。「2年生の時、遠征先でハイレベルな練習を見て心を打たれました。もっと強くなつて、勝てるようになりたい」と、ハンドボールに打ち込み、高校では春の全国選抜大会と夏のインターハイに出場、大学ではインターカレ準優勝を果たします。

大学卒業後、就職と同時にHC名古屋に入団した榊さん。入団後、新たな舞台に意気込む榊さんを脛骨疲労骨折というけがが襲います。「今まで大きなけがもなく、順調だったので、とてもショックでした。気合が入っていた分、悔しさと悲しさが込み上げました」。挫折感に苦しむ中、「職場で教わったトレーニング方法を取り入れたり、ご厚意で酸素カプセルを使わせてもらったりするなど、職場やチームの温かい励ましやサポートが前向きな気持ちを取り戻す支えになりました」。リハビリを重ねて半年、復帰を果たした榊さんは、長い手足を持ち味としたキーピングで好セーブを重ね、活躍を見せます。「初の日本リーグのコートに立った時は、つらさを乗り越えた達成感を感じました。

トレーニングのおかげで肩と脚の可動域も広がり、心身共に成長できました」と振り返ります。

コート上で仲間を鼓舞し、ゴールを守る頼もしい姿を見せる榊さんは、キーパーとしての醍醐味を「試合の流れを変えるセーブ」と話します。「相手の動きを読み切った位置取りで、シューターとの一瞬の駆け引きを制した際には、劣勢をひっくり返す流れを生むことができる」と真剣な表情で語ります。

榊さんは、市内各地で出店するキッチンカーで毎月一回、「HARUの日」として、ファンとの交流を行っています。「職場や地域の人からの応援の声が一番の励み」と話す榊さんは、「大府は自然がいっぱいで、空気も食べ物も新鮮でおいしい。また、地域の方々が温かいところが、北海道のふるさとに似ていて大好きです。まちのイベントやハンドボール教室などで、積極的に地域の人と関わられたら」と大府への愛着を笑顔で語ります。

今後について「9月8日(日)から開幕するリーグ戦で団結して勝ち抜き、優勝したい」と、目を輝かせる榊さん。ファンからの「黄援」を背に、夢への道を歩みます。  
※選手たちへの応援の通称。HC名古屋のチームカラー(黄色)が由来。



▲HARUの日におぶちゃんとの2ショット

cover

今号の表紙は、おおぶジュニア弦楽団の設立を記念して開催したバイオリン体験会の様子です。セントラル愛知交響楽団のバイオリン奏者から、丁寧な指導を受け、美しい音の出し方を学びました。講師や仲間の音に耳を傾けながら、ハーモニーを奏でました。

